

運動器疾患

科目責任者 高畑雅彦
学年 6学年

I. 前 文

運動機能の障害は肢体不自由の原因として小児から高齢者まで、社会参加の面で大きな障壁となる。運動器疾患の病態を理解し診断、対応について学ぶことは少子高齢化社会を支援する上で基本的な対応を学習することである。ここでは広範囲な内容を集中的に講義する。

II. 担当教員

教授 高畑雅彦 整形外科学
神野哲也 埼玉医療センター・整形外科
入澤寛 リハビリテーション科学
講師 中山健太郎 整形外科学

III. 学修の到達目標

各種運動器疾患の概要と対応が説明できる。

IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習として、講義・臨床実習で整理した資料を確認する。所要時間の目安（約3時間）

事後学習として、運動器に関する過去2年間の本学第2次・3次卒業試験問題解説と医師国家試験問題の解説を復習する。所要時間の目安（約6時間）

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	7	24	金	5	脊椎の疾患と外傷	整形外科学 高畑雅彦	1
2		24	金	6	下肢の疾患と外傷	埼玉・整形外科 神野哲也	1
3		24	金	7	リハビリテーション医学概論・各種疾患のリハビリテーション	リハビリテーション科学 入澤寛	1
4		27	月	1	上肢の疾患と外傷	整形外科学 中山健太郎	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

カテゴリ試験の成績をもって評価する。

その他、試験および成績評価に関する取り扱い等、学生生活のしおりに掲載の各規程を参照すること。

VII. 医師国家試験出題基準 (令和6年版)

必修-7-I-(6)(7)(8)(9)(10)(11)

必修-8-J

必修-9-O-(1)(2)(3)(4)

- 必修-12-J-⑩⑪⑫⑬⑭
- 総論（Ⅲ人体の正常構造と機能）-8-E
- 総論（Ⅸ治療）-9-A
- 総論（Ⅸ治療）-9-B-①②④⑥⑦⑧⑨
- 総論（Ⅸ治療）-9-C-③⑤⑥⑦
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-3-F
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-7
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-8
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-9
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-10-B
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-10-C
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-10-D
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-10-E
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-10-F
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-10-G
- 各論（Ⅸ神経・運動器疾患）-10-H

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験内容の質問等に関して都度解説する。